

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「カンジー博士の漢字学習の秘伝」 教材名「カンジー博士の漢字学習の秘伝」

2 単元の目標

漢字と仮名の表記や送り仮名を理解して文の中で使うことができる。文章を読み返し、漢字や送り仮名の使い方を確かめて文章を直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①漢字と仮名の表記や送り仮名を理解して文の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、文章を読み返し、漢字や送り仮名の使い方を確かめて文章を直している。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

自分の漢字学習の記録から間違いやすい箇所を特定し、意味・字形・使い方に分けて確かめ直す。同じ字を多く書く回数で成果を測らない。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ウを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、漢字や送り仮名の使い方を確かめて文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学習記録から誤りを一つ選ぶ。誤りの種類と確かめ方を対応させる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○別の語や文で使って確かめる。次に使う学習方法を説明する。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

文章を読み返し、漢字や送り仮名の使い方を確かめて文章を直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確かめ、自分の最初の考えを短く書く。 ○「自分が間違えた理由に合う確かめ方は、どれですか」 【めあて】自分の漢字学習の記録から間違いやすい箇所を特定し、意味・字形・使い方に分けて確かめ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・形を見分けられなかったので部分を比べたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「自分が間違えた理由に合う確かめ方は、どれですか」別の語や文で使って確かめる。次に使う学習方法を説明する。 自分の誤りの種類、選んだ確かめ方、別の文で使った結果。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・形を見分けられなかったので部分を比べたい。 ・読みは分かるが文で使えなかった。 ・送り仮名を辞書で調べ直したい。	誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。 想定するつまずき：何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読み返し、漢字や送り仮名の使い方を確かめて文章を直している。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・送り仮名を辞書で調べ直したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「自分が間違えた理由に合う確かめ方は、どれですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

